

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3893900062
法人名	グループホーム 虹
事業所名	有限会社 レインボープラス
所在地	愛媛県北宇和郡松野町大字豊岡3011-12
自己評価作成日	平成28年 5月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成28年6月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様がお一人お一人のペースでゆったりとした生活を送ることが出来るよう、落ち着いた雰囲気作りを意識している。また、身体や精神状態を考慮した個別的なケアを行っている。例としては、畑での野菜作り、外出・外食などがある。そのためには個人の思いに寄り添う事が大切と考え、ミーティングなどで全員でアセスメント・カンファレンスを行い、これまでの生活歴や認知症についての研修等を行うなど、職員全員で取り組むよう努めている。また、同敷地内の他施設との交流の時間を持ったり、ボランティアの慰問や地域の行事の参加や個別外出が実施出来るよう努めている。日常的には必ず午前中に全員で輪になり体操や童話の読み聞かせ、対話やリハビリ体操などを行っており、日課となっている。また、終末期の研修を行い、看取り介護にも積極的に取り組むなど家族や医療との連携に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所に隣接して、法人のデイサービス付き高齢者賃貸住宅と介護付き有料老人ホームが運営されている。地域行事に参加したり、法人全体で保育園やボランティアとの交流が積極的に行われている。職員の研修参加や指導体制についても、法人として確立されたものがあり、施設内外の勉強会への参加の機会が豊富である。事業所の利用者は、併設の高齢者住宅からの入所が多く、環境の大きな変化がなく安心して暮らしていけることから、事業所への期待と信頼感は大い。認知面や身体面ともに重度化が進んでも、また、終末期になっても事業所での暮らしを希望される利用者や家族が多いことは高く評価できる点である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

平成28年 5月27日

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 虹

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名 _____

評価完了日

平成 28年 5月 27日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 家庭的な雰囲気の中にも信頼関係や利用者様を尊厳する気持ちを持って、「愛と真心と思いやりの心」を忘れることな (外部評価) 開設当初に作られた法人の理念を基本にしており、理念は事業所がよく見える場所に掲示している。また、毎月の職員会	開設して1年経過し、職員と話し合いを行うなど法人の理念を念頭に踏まえて事業所独自の理念を検討した
2	2	平成28年 5月27日	(自己評価) 散歩や地元の病院に受診した時など、地域の知り合いの方に声をかけて頂き、交流する機会がある。また、地域の行事(高齢者のお祝い事・花見会など)へ出向く機会を持っている。自立度の高い利用者様については、外出・外食・外泊も行っている。 (外部評価) 隣接する法人の3施設には、法人の施設に、日舞やフラダンス等のボランティアの訪問があり、利用者も参加して楽しんでいる。また、地域の行事に参加したり、保育園との交流もあり、管理者は、今後は事業所独自の交流ができるようにしたいと考えている。	地域との交流について、職員間で話し合う機会づくりを行うなど、利用者が、地域とのつながりを深められるよう取組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 2か月に1回の運営推進委員会や市域ネットワーク会議などにおいて、認知症についての理解や支援について、施設の立場から報告を行い発信する機会がある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 施設開設以来、運営推進委員会を重ねて行き、施設に対しての理解を得、協力して頂いている。地域の方から、アドバイスや情報を提供して頂き、日々の支援に生かしている。町全体の避難訓練も地域より参加依頼あり施設からも職員が参加した。	
			(外部評価) 運営推進会議には、家族、3地区の区長、民生委員、消防団長、駐在所所長、町職員の参加を得て、2か月に1回開催している。事業所の利用状況、行事報告、行事予定、ヒヤリハットと事故報告を行うとともに、地域の情報収集や参加者の要望や意見交換を行っている。家族が順番に運営推進会議に参加できるよう配慮しており、参加できない家族には、議事録を送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 日頃から地域包括センターや保健課の方とは連絡が取れており、日常業務の相談や、利用者様の状況報告など出来ている。運営推進委員会の参加もほぼ毎回あり、施設支援の状況などを知らせている。	
			(外部評価) 運営推進会議に参加してもらい意見や助言をもらっている。また、分からないことや、疑問点等の相談をしている。地域包括支援センター主催の地域ネットワーク会議に月1回参加したり研修を行ったりしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 施設会議において、職員に身体拘束の研修を行っている。正しい理解を持って日々支援にあたるよう、全職員が意識している。	
			(外部評価) 法人による年1回の身体拘束の研修会があり、身体拘束をしないケアの方針は職員に根付いている。利用者の状態に合わせて、職員間で話し合うなどケアの統一を図っている。なお、身体拘束をしないケアについては、入居時に家族に説明しており、緊急やむを得ない場合、医師の指示による安全確保のためのケア等についても家族の同意を得ている。また、言葉の拘束については、職員同士で注意を払うなど特に気をつけており、声かけについては慎重にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 会議で研修の機会を持ち、職員全員が虐待に対する認識を持ち、日々の支援に生かしている。職員間でも日頃から虐待について話している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 会議で自立支援についての研修会があった。当施設では後見人制度の利用などはないが、今後身近な問題となってくることを予想し、ファイルを作成し、職員が理解するよう努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約前・契約時には十分な説明を行い、十分理解して頂いた上で締結している。また、制度の改定などの際には利用者様や家族に書面にて説明を行い、必要に応じ同意書をもっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進委員会には毎回、どなたかの家族に参加して頂き、意見や要望などを伺うようにしている。また、面会時やプラン作成時などにも意見を頂き、カンファレンスに生かしている。	
			(外部評価) 家族には、面会時や介護計画説明時、運営推進会議で要望や意見を聞いている。管理者は、開設して1年が経過したのを機に、家族同士が話し合いができる家族会を、年に1回は開催する方向で検討している。	管理者は、家族が要望や意見を出しやすいよう家族自主運営の家族会を持ちたいと考えており、家族の本音を聞き取り、協働して利用者のケアを行っていただけるよう家族会が定期的開催されることを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月行っている施設会議の中で、職員の意見や提案を聞く機会を設け、必要な場合には今後の運営に生かせるように努め、働きやすい職場作りに取り組んでいる。会社全体の会議にも参加しており、運営についての取り組みなどを聞く機会がある。 (外部評価) 職員全員が参加の上毎月1回職員会を開催し、運営に関する意見を出し合っており、普段から職員が管理者に意見を気軽に言える環境が整えられている。管理者は職員と相談の上、研修が受講できるよう配慮している。また、職員の資格取得に関しては、事業所は職員が資格を取得できやすいよう積極的に支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員が働きやすさの中で、やりがいや向上心を持てるよう、研修や資格取得の機会を持っている。給与についても応能に応じた給与を検討している。また、休暇や勤務日数など職員1人1人の環境に合わせたもの出来るよう努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 施設会議での研修や資格取得の励めを行っている。また、外部研修についても職員に合った研修への参加を促している。また、日々の支援の中で、職員間で指導、助言しながら進めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域ネットワーク会議や地元での研修に参加し、他の事業所と情報の交換を行い、質の向上に努めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 出来れば見学を行い、事前に情報の提供を頂く。入所時にはご本人や家族と密に話せる時間を十分に設け、具体的な要望を聞けるよう努めている。また、安心して頂けるよう、施設の支援について具体的な説明を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 本人や家族の要望や希望、困っている話を傾聴し、施設の特性や、そのことに関しての具体的な支援についての説明を行い、安心して利用して頂けるよう、関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご本人や家族と必要な支援について、具体的に話し合う。他のサービスの情報提供も含め、一緒に何が必要かを話し合っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常生活の中で、利用者様それぞれの出来る範囲で家事や作業に参加して頂いている。自然にそれぞれが役割のようになって、助け合いの中で生活出来ている。その際には、お互いが感謝の意を伝える。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には直接、プラン変更時には電話で必ず状況の報告を行っている。また、定期的な新聞の発行や必要書類の送付時、状況の変化時には生活状況が分かるようお伝えしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域の行事に参加したり、外出する機会を持てるよう努めている。可能な方は、定期的に自宅へ帰省し家族との時間を 受診時は知り合いに会う機会でも、よく話している。	
			(外部評価) 入居時に、馴染みの人や場所の情報を家族から聞き取っている。隣接する高齢者住宅からの入居が多く、利用者の馴染みの場所が施設となっており、事業所内で穏やかに過ごすことが多くなっているが、家族が面会した際に、自宅へ帰り泊まることもある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を把握し、席の位置を工夫している。また、みんなが交流が持てるよう利用者同士の橋渡しを行っている。また、トラブルになった場合には職員が仲介に入りうまく収まっている。1日1回は必ず全員で輪になったレクを取り入れている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院が長期化しそうな場合には、気軽に今後の相談が出来るようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入所時の情報や施設での様子を見ながら、職員全員でアセスメントを行っている。また、日々の申し送りの中からも、一人一人の思いを把握出来るよう努め、その方に合った、個別的な支援に努めている。 (外部評価) 利用者や家族一人ひとりの思いや要望を聞いたり、利用者毎の担当職員や他の職員から新たに得られた情報は、申し送りノート等に記録し職員間で共有し支援している。また、意思表示の困難な利用者には、表情や普段と違う様子等を見逃さないようにシケアに生かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時には、本人や家族、利用サービス事業所などから可能な限り情報を収集し、基本情報に取り入れている。職員間でそれを共有し、支援に生かせるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 介護記録や申し送りを共有し、日々の変化にも敏速に対応出来ている。利用者様の発言や変わった行動についてはなるべくその場で報告、観察できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) ケアマネを中心に全員で計画書作成に取り組んでいる。出来る限り本人や家族の要望を聞き、職員全員の会議の中で、状況の確認や変化を話し合い、状態にあった介護計画作成に努めている。必要により主治医も参加して頂く。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族の意向を踏まえて、計画作成担当者が介護計画を作成している。また、モニタリングは担当職員が行い、6か月に1回介護計画の見直しを行っているが、状態の変化があればその都度見直しを行っている。毎月1回職員会で、職員全員が介護計画を共有できるよう利用者の状況を話し合っている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 介護記録に日々の様子やケアの内容を記録しており、全員が共有している。必要により家族も共有する。記録の方法も共通したものとし、色で区別するなど分かりやすいように工夫している。また、特に変わった状況については、申し送りノートに記入し、申し送り時に使用している。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 利用者様や家族の状況やニーズに応じて、必要な支援が出来るよう、柔軟な対応に努めている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 利用者様の状況に合わせて、個別に地域の行事に参加したり、実家での時間を持ったりしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人や家族の要望を聞きながら、これまでの主治医が継続出 来るように努めている。また、病状により医療の変更が必要 な場合には、本人や家族と相談し同意を頂いた上で変更を 行っている。また、受診時には状況の報告を行い、助言を頂 き適切な医療が受けられている。 (外部評価) 利用者や家族の意向を踏まえかかりつけ医の変更はしていな い。要望があれば歯科などの往診を受けることもでき、月に 1回の定期検診や眼科の専門外来に通院する場合は、職員が 付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 介護職員は日々の支援の中で、状況の変化や異常に気づき、 看護職員に報告を行っており相談出来ている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行ってい る。	(自己評価) 入院時には家族に了解のもと情報の提供を行い、入院中も連 絡を取り合い、状況の把握に努めている。退院時には地域連 携室を中心に、主治医・看護師・施設参加のカンファレンス を行うなど、協力体制が出来ている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 終末期のあり方について早めに家族と話し合う機会を持つよ う努めている。体調の悪化が見られた場合には、家族・主治 医・施設間の話し合いを設け、医師より家族に終末期につい ての説明を行い、今後の方針を決めている。看取り介護の場 合、カンファレンスを行い、家族・主治医に同意書を頂いて いる。それに沿った介護計画書を作成し、職員間でも共通の 意識を持つよう努めている。 (外部評価) 重度化した場合、看取り指針に基づきケアを行うことを職員 全員が職員会等で共有できており、今までに1名の看取りの 経験がある。利用者の状態に応じ必要時に看取りの説明をす る方針で、このことは家族の同意を得ている。職員は重度化 した利用者のケア等の経験が少ないため、研修会等の参加に より研さんに努めており、看取り対応後の職員のメンタルケ アについては、職員会等で意見交換を行っているが、まだ物 足りないので今後繋がる勉強会を行う予定である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 施設会議や全体の会議において応急処置の研修会を開き参加している。また、施設内にはマニュアルを作成し、職員が日頃から確認できるようにしている。今後も研修などに参加し、実践力を身につけるよう考えている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 会社全体で消防署の指導のもと、年に2回の避難訓練を行っている。当施設はオープンから1回参加した。また、地域全体の避難訓練にも職員が参加し避難経路などの確認など、地域との連携を持てるよう努めている。また地震が頻回に起きている時は、敷地内事業所と連携し避難マニュアルを作成し、職員に通達している。 (外部評価) 年2回消防署の協力を得て、法人合同で避難訓練を実施しており、法人施設相互の応援体制が整備されている。地域の避難訓練に職員も参加し避難経路等の確認を行うなど、地域との協力が得られるように努めている。緊急連絡網を整備し実践の訓練を行うほか、町から防災グッズ等が提供されている。また、水や食糧に関しては、法人の委託業者と連携し備蓄品として整備されている。	開設して1年目であり、法人合同の避難訓練を実施し、協力体制も整備されているが、災害対策をより強固にする意味でも防災訓練の職員への周知をさらに徹底し、利用者がより安心して暮らせるようになることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 特に、入浴や排泄の支援では本人の意思の確認を行い、1対1介護でドアを閉めて行うなどの気配りを持って行うようにしている。また、人権の尊重やプライバシーについてマニュアルを作成し、職員が日々のケアの中での声掛けや対応について意識して行えるよう努めている。 (外部評価) プライバシー保護マニュアルに基づきケアを実践しており、勉強会を実施するほか日々の業務の中で確認を行い、過度の馴れ合いにならないよう気を付けて支援している。トイレやお風呂では、尊厳を傷つけないケアを徹底し声かけも十分配慮されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日々のケアの中で、まずは声掛けを行い意思を確認することを基本とし、本人の意思決定を重視するよう努めている。また、自発的な行動についても、止めることなく、危険がない限り見守り、積極的な行動を促すよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者様一人ひとりの生活リズムやパターンを把握し、その方に合ったケアを行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 入浴時以外では特にモーニングケアは毎日、なるべく本人が出来る様支援している。美容室の方に来て頂き、希望により定期的散髪を行っている。衣類に関しては、本人の趣味を把握し、基本的には本人が選び助言をしながら来て頂いている。汚れた場合には更衣の声掛けやお手伝いを行い、清潔に努めている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 入所時に好き嫌いを伺い、個人の好みを把握している。また、施設畑で野菜を栽培し、利用者様と収穫、下ごしらえを行うこともある。出来る方には、時々洗い物などの手伝いをして頂いている。昼食は職員も一緒にテーブルを囲み食べている。	
			(外部評価) 食事は、委託業者から受け取り、ユニットのキッチンで盛り付け配膳している。利用者の嗜好や体調に合わせて食事形態を事業所で調整している。利用者は、使い慣れたお茶碗や箸を使用して、ゆっくりと自分のペースで食べている。職員は、利用者と同じ食卓と一緒に囲み、会話を楽しみながら食事をしている。また、おやつや誕生日のケーキづくりを一緒に楽しみながら、外食を取り入れるなど利用者が食事を楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日、毎食の食事量のチェックを行い、必要な場合は水分摂取量のチェックを行っている。また、利用者様の状態に合わせて、との都度食事携帯を工夫している。また、一人一人の好みや量を把握し提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、可能な方はうがいを行っている。義歯は夜間はお預かりし、消毒洗浄を行っている。うがいが不可能な場合は口腔内の清掃介助を行い、食事の最後にはお茶を飲んで頂くようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 時間にとらわれず、一人ひとりの排泄パターンを把握し、その方に合った誘導を行い、可能な限りトイレでの排泄を目指している。また、出来る事はして頂けるようにし、安全や排泄確認を見守っている。	
			(外部評価) 職員の声掛けや誘導により、利用者はトイレでの排泄を行っている。おむつから紙パンツへ移行できた利用者もあり、自立に向けた取組みに積極的である。夜間は睡眠を大切にしているため、おむつを使用している利用者もいるが、できるだけ夜間も声かけしトイレ誘導を行う支援ができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘についての知識を共有し、すぶんの摂取や、運動を取り入れるよう努めている。また、すぐに服薬には頼らず、腹部マッサージなどを行い、自然な排便を目指している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の希望する入浴時間や方法を可能な限り聞き入れ、1対1介護でゆっくりとコミュニケーションをとりながら行っている。出来る事はなるべくして頂き、拒否がある方に対してはタイミングを見て納得いく誘導で入って頂くよう努めている。利用者によっては、1時間以上入浴される方もある。	
			(外部評価) 週3回入浴できるよう支援しており、入浴の苦手な利用者には、時間をずらして声かけを行うなど、無理強いすることなく入浴できるよう配慮している。また、入浴介助は同性介助を基本としており、入浴剤を入れるなど、利用者が気持ちよくゆっくり入浴できるよう心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者様それぞれの体調に合わせ、日中の静養を取り入れる事もあるが、基本的には日中は活動的に過ごしていただき、気候により日光に当たって頂くなどのレクを行うよう努めている。夜間の就寝時間は個人で違っており、合わせた就寝をして頂いている。就寝前のトイレ誘導や室温の管理など安眠出来るよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員全員が一人ひとりの服薬について把握するよう努め、服薬の管理と服薬介助のマニュアル化で誤薬を防止している。職員間でも利用者の状況の変化を発見し、服薬について話し合う機会を設けるよう努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者様の生活歴から、好まれる事や得意な事を知り、日々の生活に生かせるよう支援している。畑を設けたり、家事の手伝いをして頂いたり、無理強いすることなく自発的に取り組んで頂けるよう工夫している。コーヒーが好きな方には飲みたいときに飲んで頂くなど。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 地域の行事などに個別に外出する機会を設けている。また、希望により、買い物や外食に出かけたり、自宅へ帰る機会もある。また、日々のケアでは、気候により可能な限り屋外で過ごす時間を持ち、気分転換が図れるよう努めている。 (外部評価) 日頃から近隣の公園にドライブに出かけたり散歩したりしている。ファミリーレストランでの外食やスーパー等への買い物に出かけたりしている。また、季節に応じて花見、となり町のお雛様飾りや敬老会等など、家族と一緒に外出する場合もあり、利用者の楽しみの一つとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 認知症の進行により、個人でのアカネの管理が難しいケースが多いが、希望がある方については、多額にならない程度のお金を所有して頂いている。買い物に出掛けたり、パンの販売が来た時には本人で使って頂く事もある。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 可能な利用者様については希望により、自由に電話をして頂いている。また、手紙のやり取りも自由にされ、職員が代行して出している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 施設内全体の空調管理で温度を保っている。ホール内には季節の壁飾りや花を置き、天窗からは自然の光が常に射している。トイレに迷われる方もおられるため、トイレまでの目印をつけるなどの工夫をしている。夏はやや日差しが強すぎる難点があるが、席の移動などで対応している。</p> <p>(外部評価) 共用空間は、天井が高くファンが回り快適な風が感じられ明るく開放感があり、季節の花も飾られ落ち着いた雰囲気である。利用者の作品や日付が分かりやすい大きなカレンダーが壁に掲示されている。また、トイレの場所が分かりにくい利用者の居室から、導線にテープが貼られ表示されているほか、浴室は、家庭用浴槽にリフト浴が設置されており、利用者の身体状態に応じた対応ができるよう配慮されている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 広いホールではテーブルを好まれたり、ソファを好まれたり、各々が各場所で過ごされている。利用者同士で話をしたり、時には居室で話をされることもある。居室を好まれる方もあり、閉じこもりにならない程度で自由に過ごせる環境に努めている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 以前からの馴染みの物を置くように努め、居室の位置についても、本人や家族の希望のある方は聞き入れている。エアコンも備え付けてあり、快適な温度で毎日の掃除で清潔が保てるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 居室には、エアコン以外は全て個人の持ち込みとなっており、利用者の生活状況に応じて介護ベットや冷蔵庫等が置かれ、自宅で愛用していたテレビや家族写真が飾られている。また、居室前には、利用者手づくりの風鈴が飾られ季節を感じることができ、居心地よく安心して過ごせる居室になっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 施設内は全バリアフリーとなっており、通路やトイレ・浴室には十分に手すりを設置しており、安全に移動できるようになっている。居室には目印を付けるなど自立に向けての工夫を行い、移動動線には荷物や物を置かないよう、安全な移動に努めている。</p>	